

ダンス楽しみ交流

筑波学院大で新入生ら

楽しみながら積極的な交流と親睦を図ろうと、つくば市吾妻の筑波学院大学（大島慎子学長）は6日、外国人を含む新入生177人を対象に、アメリカ生まれのスクエアダンスを取り入れたオリエンテーションを同大体育館で開いた。

スクエアダンスは男女ペア4組が1セットになり、軽快なウエスタン音楽などに乗って踊るダンスで、踊りの動作に順序はなく、ゲーム性がある。「コーラー」と呼ばれる動作の指示者が次々に出す英語の指示に従って、隊形を変えながら踊る。動作は世界共通で、約70の基本的な動作を覚えると、日本はもちろん世界中で楽しめるという。



スクエアダンスを楽しむ交流を図る筑波学院大学の新生たち。つくば市吾妻

オリエンテーションには、日本スクエアダンス協会（会長・沖吉和祐同大学理事長）と、つくば市内で活動する筑波スクエアダンスクラブ（半田啓二会長）が協力。会場では、同クラブ会員の17人が模範演技を披露し、新入生らを指導した。

同大では、新入生対象セミナーの一環として2015年から同ダンスを導入し、今回で4回目。これまで体験した学生や教員からは「スムーズな関係づくりに役立った」と好評だったという。新入生でモンゴル出身のミヤガマル・ダワールさん（18）は「楽しかった。韓国、日本の人と一緒にダンスし、すごく親しくなれた」と笑顔を見せた。

（久保浩）